

### 3章 耐震診断（被災後）

総合所見 被災後	No.
----------	-----

	桁行方向(X方向)		張間方向(Y方向)
崩壊形について	<p>曲げとせん断が混在した崩壊形である。 極脆性柱はない。 地上部分はゾーニングによる診断とし、 地下部分は階全体による診断とした。 第2種構造要素の柱は存在しない。</p>	崩壊形について	<p>曲げとせん断が混在した崩壊形である。 極脆性柱はない。 地上部分は各フレーム毎による診断とし、 地下部分は階全体による診断とした。 第2種構造要素の柱は存在しない。</p>
採用 $dI_s$ について	<p>各層・各ゾーン共に、(5)式を採用した。 <math>dI_s</math>の最低値は <math>dI_s = 0.905 &gt; I_{s0} = 0.70</math> となっている。</p>	採用 $dI_s$ について	<p>各層・各フレーム共に、(5)式を採用した。 <math>dI_s</math>の最低値は <math>dI_s = 1.307 &gt; I_{s0} = 0.70</math> となっている。</p>
$d(C_{TU} \cdot S_D)$ について	<p>最低値は <math>d(C_{TU} \cdot S_D) = 0.726 &gt; 0.30</math> となり所要値を満足している</p>	$d(C_{TU} \cdot S_D)$ について	<p>最低値は <math>d(C_{TU} \cdot S_D) = 0.417 &gt; 0.30</math> となり所要値を満足している。</p>
総合所見	<p><math>dI_s</math>値、<math>d(C_{TU} \cdot S_D)</math>共、所要値を満足している。 経年指標は <math>T = 0.98</math> (床・壁の軽微なひび割れによる減点)である。 地上部分の<math>dSD</math>指標はゾーニングによる診断のため1.0を採用する。 但し、剛性による減点を考慮するゾーニング部分については、<math>F_s=1.5</math>とし、<math>dSD=0.67</math>を採用する。地下部分の<math>dSD</math>指標は0.95である。 コンクリートコア強度の平均値は、B1F:40.3, 1F:27.7, 2F:22.1 N/mm<sup>2</sup>である。設計基準強度は 210 kgf/cm<sup>2</sup>であり、診断基準より設計強度の1.25倍(25.7N/mm<sup>2</sup>)までを採用する。 →所要の耐震性能を満たしていると判断する。</p>	総合所見	<p><math>dI_s</math>値は、所要値を満足している。<math>d(C_{TU} \cdot S_D)</math>は、所要値を満足している。 地上部分の<math>dSD</math>指標は各フレーム毎による診断のため1.0を採用する。 但し、剛性による減点を考慮する代表フレーム部分については、<math>F_s=1.5</math>とし、<math>dSD=0.67</math>を採用する。地下部分の<math>dSD</math>指標は0.95である。 経年指標、コンクリート強度については、桁行方向の値と同じである。 →所要の耐震性能を満たしていると判断する。</p>

※上記の4,5式は、日本建築防災協会「2001年改訂版 耐震診断基準・同解説」のE0算定式を示す。

表名
耐震診断総合所見
建物名
金峰山少年自然の家体育館
調査日
H 29 年 1 月